

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果

1 調査目的

- (1) 子どもの体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子どもの体力・運動能力や運動習慣・生活習慣等を把握・分析することにより、子どもの体力・運動能力や運動習慣等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子どもの体力・運動能力の向上に係る施策（各国公私立学校においては取組）の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子どもの体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒を対象。

- (1) 小学校調査
小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の第5学年全員
- (2) 中学校調査
中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程及び特別支援学校中学部の2年生全員
※特別支援学校及び小中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒の参加については、その障がいの状態等による。

3 調査内容

- (1) 児童生徒に対する調査
 - ア 実技に関する調査
[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（小学校のみ）、ハンドボール投げ（中学校のみ）
 - イ 質問紙調査（運動習慣、生活習慣等）
- (2) 学校に対する質問紙調査
・子どもの体力・運動能力、運動習慣等の向上に係る学校の取組等

4 調査実施期間

- (1) 実技調査実施期間：2019年4月から7月末までの期間
- (2) 児童生徒、学校質問紙調査実施期間：調査票到着から7月末までの期間

5 調査実施校数（国立・公立、私立）

29,875校（小学校19,583校、中学校10,292校）

6 大分県児童生徒の状況（詳細は別紙資料）

- (1) 調査校数・児童生徒数（公立）
 - ① 小学校（256校、男子5,019名、女子4,849名：特別支援学校含む）
 - ② 中学校（122校、男子4,347名、女子4,215名：特別支援学校含む）

(2) 体力合計点による全国順位【資料1】

- ① 小学校5年男子 2位(九州1位) (H30: 1位、九州1位)
- ② 小学校5年女子 4位(九州1位) (H30: 3位、九州1位)
- ③ 中学校2年男子 3位(九州1位) (H30: 6位、九州1位) 過去最高値
- ④ 中学校2年女子 9位(九州1位) (H30: 8位、九州1位)

(3) 全国平均以上の項目数(8項目中)【資料2】【資料3】

- ① 小学校5年男子 8(H30: 8) 中学校における項目数は持久走を除いた数
- ② 小学校5年女子 8(H30: 8) (持久走のみの選択者が少ないため)
- ③ 中学校2年男子 8(H30: 8) ※持久走のみの選択者数
- ④ 中学校2年女子 7(H30: 8) 男子: 43名(全生徒数の約1.0%)
女子: 44名(全生徒数の約1.0%)

(4) 各調査項目の結果【資料2】【資料3】

- ① 小5男女は、全項目で全国平均を上回り、体力合計点は過去最高値(H20の調査開始以降、以下同じ)となった昨年度に次ぐ得点であった。
- ② 中2男女は、8項目中2項目(男子:長座体前屈、立ち幅跳び、女子:50m走、立ち幅跳び)で過去最高値となり、体力合計点は過去最高値となった昨年度に次ぐ得点であった。
- ③ 中2女子は、上体起こしが全国平均を下回った。

(5) 体力総合評価【資料4】

- ① 総合評価がC以上の児童生徒の割合は、全てで全国平均を上回り、過去最高値となった昨年度に次ぐ割合であった。

(6) 児童生徒質問紙による調査結果【資料5】【資料6】

- ① 1週間当たりの運動実施時間は、全てで全国平均を上回ったが、2年連続減少している。
- ② 1週間当たりの総運動時間60分未満の割合は、全てで全国平均を下回り、小5男子は過去最低値となった。
 - (1) 小5男子 5.5%(全国 7.6%) 過去最低値
 - (2) 小5女子 11.0%(全国 13.0%)
 - (3) 中2男子 4.4%(全国 7.1%)
 - (4) 中2女子 14.7%(全国 19.4%)
- ③ 運動やスポーツへの愛好度は、「好き」「やや好き」と回答した割合が、全体的に上昇しているものの、小5女子で全国平均を下回った。

(7) 学校質問紙による調査結果【資料7】

- ① 小・中学校ともに、「学校全体で体力・運動能力向上の目標設定」「運動が苦手な子、性別に応じた体力向上の取組」「調査結果を踏まえた授業等の工夫・改善」「家庭へ体力向上に係る説明・呼びかけ」の項目で全国平均を10ポイント以上上回った。
- ② 中学校においては、「体育、保健体育の授業以外で体力・運動能力向上の取組」が全国平均を27.5ポイント上回った。

7 考察

(1) 成果

- ① 「体力合計点による全国順位」や「各調査項目の結果」などから、本県児童生徒の体力と運動能力は高い水準にある。
- ② 総合評価がD、又はEの児童生徒の割合は過去最低値に次ぐ低さとなっており、全体的な体力の底上げが図られている。

(2) 課題

- ① 中2女子の「上体起こし」が、全国平均を下回った。（昨年度以外の年は全て下回っている）
- ② 「1週間当たりの運動実施時間」「1週間の総運動時間60分未満の児童生徒の割合」「運動やスポーツに対する愛好度」において、小・中学校とも男子に比べて女子が低い。